

令和8年度 全国学力・学習状況調査 結果報告

秋冷の候、保護者の皆様にはますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。日頃より、本校の教育活動にご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。

4月に6年生が実施しました全国学力・学習状況調査の結果をまとめました。ご報告いたします。調査結果をもとにして、個々の児童の課題を踏まえた授業改善等に取り組んでいきます。

1 学力学習状況調査結果から

平均正答率(%)	国 語	算 数
本 校	62	60
神奈川県	61	58
全 国	60.9	56.4

神奈川県の平均正答率と比較すると、国語は1ポイント、算数は2ポイント高い状況にありました。

【国 語】

○資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる設問では、動画の一部分の工夫として適切なものを選択することができている。+14.5ポイント

○話や文章の種類とその特徴について理解することができるかどうかをみる設問では、文章の特徴として適切なものを選択することができている。+3.1ポイント

○目的に応じて、必要な情報を見つけることができるかどうかをみる設問では、話し合いの様子の一部に入る内容として適切なものを選択できている。+9.4ポイント

▲文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる設問では、正答率が低かった。-6.2ポイント

→「書く」では、無解答の児童の割合が高い。文章を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめられるように支援が必要だと考える。

【算 数】

○体積の意味について理解しているかどうかをみる設問では、正しくとらえられている割合が高い。+12.1ポイント

○示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求める設問では、正しくとらえられている割合が8割以上だった。+7.8

▲示された2つの表から、集計に誤りのある項目を見つけ、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述できるかどうかをみる設問では、正答率が5割を下回った。-7.3ポイント

→表の読み取りへの理解が弱いため、復習する必要がある。

2 生活意識調査結果から

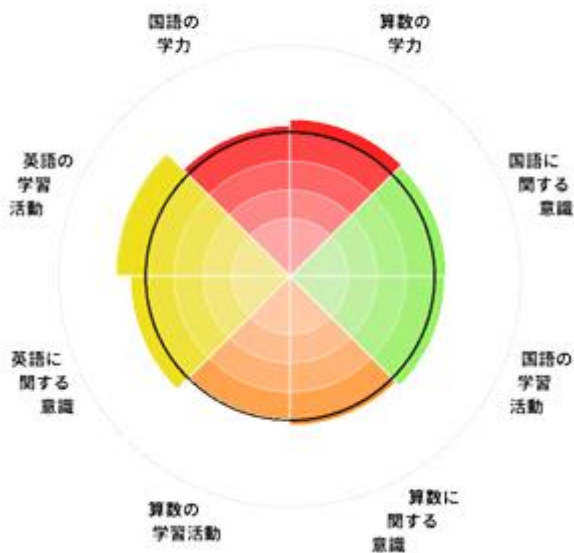
【チャート表より】

○学力、国語・算数・英語に関する意識・学習活動は、ともに、全国基準以上の値である。

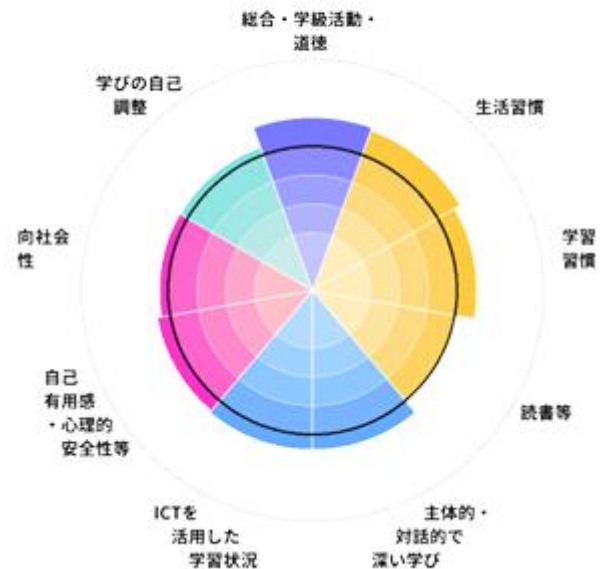
○外国語の学習活動については特に高い値を示している。

○総合・学級活動・道徳と生活習慣、学習習慣の項目については、いずれも全国基準を大きく上回っている。

【教科を中心とした学力・学習状況】
(全国基準)



【その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）】
(全国基準)



【児童質問紙結果より】

◎「朝食を毎日食べていますか」(どちらかといえば、) していると回答が約95%

→昨年度の朝食を(あまり)食べていないという回答が13%→今年度5%

◎「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」(どちらかといえば、) していると回答が約93%

→生活習慣が整ってきている。

◎「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」(どちらかといえば、) 当てはまると回答が約98%

◎「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」(どちらかという、) 当てはまると回答が約94%

◎「友達関係に満足していますか。」(どちらかという、) 当てはまると回答が約94%

◎「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」(ときどき) があると回答が約95%

▲「新聞をどれくらい読んでいますか」ほとんど、または、全く読まないという回答が約88%

▲国語の書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあると回答が約23%

▲算数の書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあると回答が約30%

→物事についてよく考え、自ら進んで課題を解決していこうとする姿勢を身に付けていくための環境づくりや支援が必要。

3 まとめ

学習面の結果では、全国・神奈川県の正答率と本校を比較すると、国語・算数ともに、平均正答率を少し上回っている。学習指導要領の観点別に見ても、「知識・技能」「思考・判断・表現」は、ほぼ平均的だった。

各教科、設問の正答率を見ると、選択式の問題では、正答率が高い。一方で、文章で表す問題や計算の過程を言葉や式、数字を用いて表現する問題の正答率が低い。記述式の問題の正答率が比較的低いことから、学習の基礎となる「読む・書く・話す・聞く」といった力を継続して高める一方、自らの考えを言葉や文章で表す力を伸ばす支援をしていきたい。日常的に短文で表現する機会を増やし、新聞記事の内容や感想を短い文で表したり、授業後の学びを短い文でまとめたりする活動を取り入れていく。また、子どもたちの語彙を増やすために、教師自らが豊かな日本語の獲得に努められるよう、ゆとりある働き方のできる職場づくりを目指す。

生活意識調査の結果では、「学校は楽しいですか」「友達関係に満足していますか」という設問に対して肯定的な考えの割合が高い。友達と関わることの楽しさや自分のよさを実感している。本校が継続して取り組んできた「誰もが・安心して・豊かに」学べる学校・学級づくりが実を結んできたといえる。引き続き、ペア交流会をはじめとした異学年交流の場を積極的に設けると共に、委員会活動やクラブ活動、学校行事において、児童一人ひとりが目的や責任をもって取り組める支援を継続的に行っていく。